

平成31年度（令和元年度）自己評価・年間反省

保育所保育指針が改訂されて2年目になり、幼児教育で育みたい3つの資質・能力や、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識した保育を心がけてきました。

園全体で取り組んでいる体育指導は4年目になり、ほとんどの子どもたちが複数年の経験を積み重ねてきました。足の指や手の指をしっかりと使い、自分の身体をコントロールしたり、遊びの中で自分で考え、試行錯誤しながら出来るようになった達成感を感じることが、成長に結びついていると思います。

保育士も普段の保育の中で、一人一人の経験、発達を見据えて、その子に今どのようなアプローチが必要なのかを話し合い、保育士全員で同じ方向に向かって関わっていくようにしています。

また、保育士全員がキャリアアップ研修の複数の講座を受講し、専門性の向上を図るとともに、自分の保育や自分の園での今までの保育を見直し、職員会議などでよりよい保育を目指した話し合いを持っています。

こども園の子どもたちだけでなく、人形劇鑑賞会、夏祭り、コープさっぽろ主催の「絵本わくわくキャラバン」など、地域の方々にも園の行事を開放し、交流を深めています。

また、毎年行っている年長児の社会見学では、今年度初めてJALにご協力頂き、旭川空港でのバックヤード見学を行い、大変好評でした。

一年間の締めくくりに向かう年明けから、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、登園自粛のお願いや、行事の変更、中止が相次ぎ、残念な状況になりましたが、縮小しながらも無事卒園式を終え、卒園児を送り出すことが出来て、良かったと思います。